□には、リンクがあります。※は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名　グループホーム　総 社　※

日付　平成18年12月27日
特定非営利活動法人
評価機関名　ライフサポート

評価調査員　在宅介護経験12年
評価調査員　在宅介護経験15年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る（改善状況のコメントがあります！）※

外部評価の結果

講評

全体を通して（特に良いと思われる点など）

10時のおやつを「おいしいね」「全部食べられんわ」と言いながらも職員の勧めもあって残さず食べた。その後利用者皆でボール投げを「はい」「はい」と掛け声をかけながら、ふざける人もいて大笑いしながら楽しく遊ぶ。やがて職員の声かけで食事の準備にかかる。エンドウの筋をとっている。キッチンではリズミカルな包丁の音がしている。錦糸玉子が出来ていた。「長いことしてないので、もとうらんのです」と言いながらも、手は自分の使った包丁やまな板を洗い、周囲も布巾で拭いてきれいにしている。さすが元主婦と感心する。盛り付け、配膳、職員が確認しながら「あちらへ持って行って下さい」「どこどこへお願いします」と指示、利用者もピリット引き締まった真剣な表情で自分で考えながら行動している。多くの利用者が参加して昼食の準備をしている。残されている能力を十分発揮している様子を見せてもらった。

散歩の時に近所の人と逢って「今度、お茶を一緒に飲みましょう。お菓子も持って行きますから」とお茶会が開かれた。後でお茶の先生だったと分かる。なんと素敵な出会いなのでしょう。また犬の散歩の途中に寄って、利用者と犬の触れ合いが出来たり、保育園児との交流も定期的に行われて、近隣の方たちや子供達との交流がとても上手くいっている。

利用者と職員で生活してきた介護生活記録を大切にしたいと考えている。9月には様式を変え、試行錯誤しながら適切な方法を見つけていき、利用者の生活の証しをしっかり記録していってくれるであろう。

特に改善の余地があると思われる点　　次のような提案をした

① 地域の住民とは自然な交流ができているが、運営推進協議会を有効に活用して、広域な範囲に認知症についての情報発信を期待している。

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	

記述項目　グループホームとしてめざしているものは何か

利用者に合った生活のリズムをつくり、その人の安心できる居場所を見つけることを支援しながらも、集団での楽しみをしながら支えあい、自由で安心した生活を送ることを目指している。

{「自分なら」と常に考える}が事務室に掲示してあり、利用者に向き合う気持を、職員一人ひとりに問い掛けながら理念の浸透を図っている。

Ⅱ 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	

記述項目　入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か

周囲は自然に囲まれて四季折々の移りを肌で感じることが出来る場所、しかも高台にあり、陽当たりと眺めが良い。テーブルに一輪挿しが置かれ可愛い花が咲いている。ソファでカラオケを口ずさみながら楽しんでいる。廊下にも椅子が置かれ、一休みできる。ちょっと落ち着かない利用者にそっと寄り添い、玄関前の椅子に一緒に座り、「あたたかいね」「お金が要らんね（暖房費のこと？）」「赤が映えてきれいじゃなあ」「そうじゃなあ」外の景色を見ながら話す事の少なかった利用者の会話が弾んでいる。「大丈夫、ひなたぼっこをしょうるんじゃもの」と利用者の返事。落ち着いてくるまでしっかり寄り添っている。ここには安心して暮らせる環境がある。

Ⅲケアサービス

番号		できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

Ⅲ ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	

記述項目　一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か

家でしていた姿が想像できるほど、家事を積極的に手伝いをしている。洗い物を済ませ職員から「ありがとう、助かります」と感謝して労えば、「これくらいの事は何ぼでもさせてもらいます」と利用者は満足感あふれる表情で答えている。暮らしの中で、その都度能力を生かせる場面を作り、自信に繋げるように工夫をしている。

声を掛けたり、寄り添ったり、その人の性格などを把握して、利用者一人ひとりにゆったりと関わっているので、利用者の表情も明るく安心して暮らしている。管理者がメンタル面を臨機応変に対応していて、この存在は大きい。

利用者と家族の絆も大切にしている。七五三のお祝いで曾孫さんを連れてきて、嬉しい感動があった写真があった。

管理者、職員が毎日利用者に関わる時に大切なこと、気を付けることなどを短文にまとめて掲示してあり、意識の向上に努めている。

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	

記述項目　サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。

ヘルパーの研修を受け入れて、外部の意見を聞いたり、気付くことがあったり、職員にも刺激になり相互研修にも取り組んでいる。

保育園児との定期交流、町内行事に参加、ボランティアの訪問、犬の散歩途中に寄ってくれる人など地域近隣との交流は盛んで素晴らしい。前面の道路を掃除していると、「ごくろうさま」と近所の方が声をかけてくれるそうで、良い関係を築いている。家族とも信頼関係にあり、安心して生活出来るように取り組んでいる。

運営推進協議会を有効に活用して、広範囲に情報を発信してもらいたい。